

【平成28年度 1年生全国学力・学習状況調査の結果】

12月に実施されました学習定着度調査の、1年生全体の結果についてお知らせします。実施教科は、国語・数学です。

『国語』

《分析》

- ・本校の国語の平均正答率は、概ね福岡市の平均と同程度であった。
- ・「読むこと」「書くこと」の領域において空所補充の問題に対する正答率がかなり低いものであった。「読むこと」においては指示される語句の中身を解答する問題への正答率が低く、「書くこと」では条件記述の問題に対する正答率が低いという結果になった。全領域で「話す・聞く」に関しては福岡市の平均をやや上回っていた。

《対策》

- ・この実態から漢字プリントや語彙プリントを利用して、言葉の知識を増やせるように指導していく。また、毎回の授業の中で「書く活動」を取り入れ、自分の意見を書かせるだけでなく理由まで説明できるようにする。
- ・説明的文章を扱うときには指示する語句の内容を発問で出し、明確にしていくようにする。曖昧な表現で書かせたり、話したり、読ませたりせず、具体的な言葉で内容を表現できるような発問を考え授業をつくっていく。

『数学』

《分析》

- ・本校の数学の平均正答率は、全国平均正答率と比べ同程度であるという結果でした。
- ・すべての分野、わずかながら福岡市の平均を下回っています。
- ・小学5年生で習得しているはずの多角形の角の和が正答率がとても低い。
- ・数学的な技能や知識理解の分野は、まずまずの結果、数学的な見方考え方が少し低い。
- ・すべての分野で5パーセントくらいの差が出ている。

《対策》

- ・毎日の家庭学習の仕方の工夫を提示したり、同じ問題を何度もさせる工夫をしなければならない。
- ・問題の内容も基礎基本に加えて、発展的な問題にも取り組ませていかないといけないが、まずは量を増やす努力をしていく。
- ・図形については授業中に図を見せることで視覚的な授業を多くして、もっと身近になる授業の工夫をする。また小学校の既習内容が確実に定着していないかもしれないので、そこも含めて取り組ませていく。

※この実態を踏まえて、国語・数学の授業で基礎基本の充実を図れるように取り組んでいるところです。1年生のみなさんは返却された結果や日頃の授業を通して明確になっている自分の課題の克服に向け、よいよいの自学ノートに工夫して取り組みましょう。目標を掲げ、高い意識をもって学習に打ち込み、2年後の進路実現に向けて、積み重ねを大切にしていきましょう。

【平成28年度 2年生全国学力・学習状況調査の結果】

11月に実施されました学習定着度調査の、2年生全体の結果についてお知らせします。実施教科は、国語・数学です。

『国語』

《分析》

- ・本校2年生の国語は福岡市平均と同程度であった。しかし、観点別で見ると全ての観点において平均正答率を下回っていた。また得点の傾向に偏りがある。
- ・言語面において、文法の問題や漢字の読み・書きを答える問題の正答率は極めて低い。書くことの領域においては条件記述の分野で苦手意識をもっている生徒が多いと見られる。読む領域に関しては概ね正答率が高いが、空所補充や一文を指摘する問題に答えることができていない生徒が多い。

《対策》

- ・言語面において、漢字の学習プリント等を利用して語彙力の向上に努めていきたい。また、授業の始めの10分程度を利用して文法の復習を定期的に行っていく。
- ・書くことに対する抵抗感をなくすために、段階をおって書く活動を増やしていき、時には教えあい学習なども行っていく。授業の中で条件作文等を扱い、決められた枠の中で自分の意見を書ける力も身につけさせていく。

『数学』

《分析》

- ・本校の数学の平均正答率は、全国平均正答率と比べ同程度であるという結果でした。
- ・「各領域の小問題」や「連立方程式」は、わずかながら福岡市の平均を上回っています。また「一次関数」でも福岡市の平均を上回っています。
- ・昨年と一緒に「資料の活用」は福岡市を下回り、課題が解決されていないのがわかります。また「空間図形」の立体の体積を求める分野では、正答率が20%という低い結果になっています。
- ・この実態からほとんどの分野で、授業中の内容が身につけていないことがわかります。教科書の基礎基本の問題は解決できていても、発展的な問題に取り組めていないなど、日頃の授業外での指導が必要になってくると感じています。

《対策》

- ・毎日の家庭学習の仕方の工夫を提示したり、同じ問題を何度もさせる工夫をしなければならない。
- ・図形については授業中に図を見せることで視覚的な授業を多くして、もっと身近になる授業の工夫をする。

※この実態を踏まえて、まず2年生の皆さんは、返却された個人票を熟読して自分の課題を明確にし、よいよいノートやワークなどを活用し課題解決に向けて努力していきましょう。目標や意識を高くもって学習に取り組むことが大切です。がんばりましょう。

【平成28年度 3年生全国学力・学習状況調査の結果】

4月に実施されました全国学力・学習状況調査の、3年生全体の結果についてお知らせします。実施教科は、国語・数学です。

『国語』

《分析》

- ・本校の国語の平均正答率は、概ね全国平均と同程度です。
内訳をみると、基礎よりも応用の正答率が高くなっています。
- ・知識に関する問題では、「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いにして読む」ことや「歌に現れた作者の思いを想像する」ことなどの古典に関する問題で全国平均を上回っています。その一方で、「文章を読み返し、文の使い方などに注意して書く」ことは全国平均を下回っています。

《対策》

- ・この実態から、漢字・文法の基礎を朝学習のプリントなどで行って知識を再補強し、作文などの指導も定期的に授業の中に採り入れていきたいと考えています。
- ・「自分の意見を考えたら終わり」にせず、ディベートなどの活動を入れることによって、他者にわかりやすい表現の仕方、多角的な物の見方やコミュニケーションの取り方を学ぶ機会を設け、「生きる力」としての国語の応用力を高める試みにつなげています。

『数学』

《分析》

- ・本校の数学の平均正答率は、全国平均正答率と比べ同程度であるという結果でした。
- ・主として知識に関する問題では、「資料の活用」では、全国平均と同程度であるが、「数と式」と「図形」「関数」においては、わずかに全国平均を下回りました。
- ・主として活用に関する問題では、「数と式」と「関数」「資料の活用」においては、全国平均をわずかに上回りましたが、「図形」においては全国平均を下回りました。また「答えを選択肢から選ぶ」と「短い言葉で解答する」ことは、全国平均をわずかに上回りましたが、「記述式で解答する」ことは、全国平均をわずかに下回りました。
- ・この実態からほとんどの分野で、授業や朝学習、家庭学習への取り組みが成果として現れ全国とほぼ変わらない力をつけていることがわかります。しかし、その反面、図形の記述的な問題に対してまだ力をつけることができていません。

《対策》

- ・授業や朝学習の中で教え合い学習を多く取り入れ、また昨年から行っている家庭学習と授業を結びつける取り組みも現在そのまま引き続き行っていきます。さらに図形の記述問題も家庭学習の課題に加え、繰り返し練習をさせていき、苦手分野の克服に力を入れていきます

※この実態を踏まえて、国語・数学の授業で弱点補強を図っているところです。また、3年生の皆さんは、返却された個人票を熟読して自分の課題を明確にし、最大限の努力を重ねていってください。目標や意識を高くもって学習に取り組むことで、短期間でも大きな成果を上げた先輩方もたくさんいました。最後まで諦めず、地道に自分の可能性に挑戦してくれることを期待しています。